

報道関係者 各位

公民連携によるインフラ設備の防災力強化・産業振興を目指し 静岡県と東急電鉄が3次元点群データの利活用に関する協定を締結

■主旨

静岡県と東京急行電鉄株式会社（以下、東急電鉄）は、両者が所有する、3次元点群データ（※）を相互に利活用し、地域の活性化や産業振興を連携して推進していくため、4月15日（月）に「3次元点群データ利活用に関する連携協定」（以下、本協定）を締結しました。

これまで、静岡県は防災、観光PRやインフラ維持管理の効率化といった観点から、構造物や観光地の3次元点群データを積極的に蓄積しています。東急電鉄も、首都高グループと共同開発中の「鉄道版インフラドクター」・「空港版インフラドクター」を活用した実証実験を、伊豆急行線内や、今年4月から東急電鉄などが運営開始した静岡空港で実施しており、3次元点群データを活用した保守管理業務の省力化に取り組んでいます。

本協定に基づく具体的な取り組みとして、静岡県は、県東部・伊豆半島の面的データ、県道の3次元点群データを、東急電鉄は、下田市街地の3次元点群データを取得します。両者は、この新たに取得するデータや、既に静岡県が保有する県道データを活用し、伊豆で進めている観光型MaaSの第2期（11月頃）において、下田市内で自動運転の実証実験を連携して行います。

このほか、静岡県は東急電鉄の取得する3次元点群データを活用し、速やかな災害対応、インフラ維持管理の効率化・省力化、防災力の強化を行います。また、東急電鉄も、伊豆急行のさらなる保守管理の省力化・防災力強化などのほか、静岡県をモデルとした観光誘客映像などのサービス事業の開発など、両者は3次元点群データを活用することで、新たな価値の創造を目指します。

※3次元点群データ：ドローンやレーザースキャナーを使って取得した、位置を表す座標指標と色の要素を持つ点の集合体

詳細は、以下の通りです。

■協定締結の背景

静岡県

- 3次元点群データを全国に先駆けて収集・蓄積し、3次元点群データ流通のプラットフォーム「VIRTUAL SHIZUOKA」を構築し、オープンデータとして公開している。
- 3次元点群データを活用した高精度地図による自動走行の実証実験を行う「しずおか自動運転 ShowCASE プロジェクト」を推進している。

東急電鉄

- 伊豆急行や東急ホテルズなど、静岡県の交通や観光を担う、古くから地域に根付いた事業者である。また、富士山静岡空港の運営を担うなど今後も静岡の社会基盤をになっていく事業者。
- 鉄道や空港の保守管理業務の省力化を目的に、「インフラドクター」を活用し、伊豆急行線や富士山静岡空港の点群データを取得している。

双方の強みを活かし、公民連携により地域の利便性の向上や、インフラ設備の保守管理の省力化・防災力強化や本県をモデルとした観光・エンタテインメントなどのサービス事業による地域の活性化・魅力発信を行うことにより、新たな価値の創造を目指す。

■協定の主な内容

(1) 名 称 3次元点群データ利活用に関する連携協定

(2) 目 的

静岡県及び東急電鉄が整備する3次元点群データを相互に利活用し、新たな価値の共創を目指すことで、地域の活性化、産業振興、経済発展及び相互の発展に寄与し、もって静岡県の魅力向上に資すること。

(3) 連携・協力事項

- (1) 3次元点群データを整備すること
- (2) 3次元点群データの相互利用に関すること
- (3) 本協定に基づく産業振興や経済発展、地域の活性化に関すること
- (4) 本協定の目的を達成するために必要な事項に関すること

(4) 今後の主な取り組み

データの取得【静岡県：東部・伊豆半島の面的データ、県道 東急電鉄：下田市街地】

3次元点群データのオープンデータ化【静岡県】

伊豆観光型 MaaS プロジェクトにおける自動運転の実証実験【静岡県、東急電鉄】

データを活用した伊豆急行の保守管理の省力化、防災力強化【東急電鉄】

本県をモデルとした観光誘客映像などのサービス事業の開発【東急電鉄】



橋梁工事で静岡県が取得した3次元点群データ例

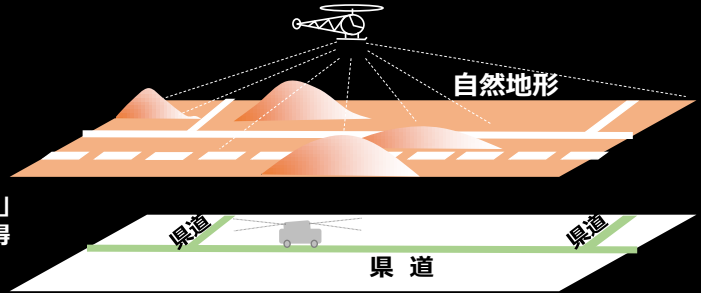


伊豆急行線で取得した3次元点群データ例

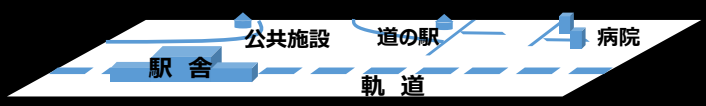
【別紙①】両者の点群データ取得イメージ



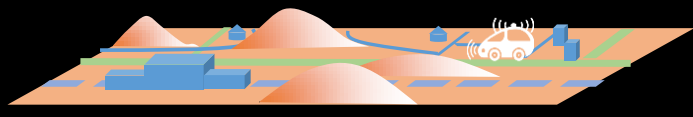
「スマートガーデンカントリー“ふじのくに”」
モデル事業による3次元点群データ取得



「伊豆観光型MaaS」による
3次元点群データ取得



【別紙②】両者のデータを合わせた面的な3次元点群データの整備
(VIRTUAL SHIZUOKA)



鉄道等インフラ維持管理の省力化・BCP

観光型MaaS自動運転実験(下田市内)

健康・映像事業連携
ディステーション誘客

速やかな災害対応

インフラ維持管理の効率化・省力化

美しい景観形成 (VIRTUAL SHIZUOKA)

安全・安心で魅力ある地域の創造

【別紙③】連携協定を締結する理由（東急電鉄の視点）

① 静岡県での事業の広がり（既存＋新規）

- ・伊豆急行、東急ホテルズなどグループ各社の既存事業。
富士山静岡空港や、富士山三島東急ホテルの新規開業。



伊豆急行（1961年～）



富士山静岡空港（2019年～）



下田東急ホテル（1962年～）



富士山三島東急ホテル（2020年）

【別紙③】連携協定を締結する理由（東急電鉄の視点）

② 「3次元点群データ利活用」の実績

- ・鉄道や空港の保守管理省力化を目的に、
インフラ保守新技術「インフラドクター」を用いて、
昨年9月に伊豆急全線、今年2月に富士山静岡空港の、
3次元点群データを取得済 ⇒省力化システムを開発中



伊豆急下田駅の3次元点群データ



富士山静岡空港で3次元点群データを取得

【別紙③】連携協定を締結する理由（東急電鉄の視点）

③ 広範囲の利活用の可能性

- ・インフラ管理省力化に加え、MaaS実証実験と組み合わせた交通、観光、エンタテインメント等での利活用の可能性
⇒MaaS実証実験の一環として、今秋に下田市内で、3次元点群データを活用した自動運転実験を予定

